

# 事業所における自己評価結果（公表）

公表：令和 6年1月17日

配付職員数31

回収数31

回収率100%

		チェック項目	はい	いいえ	他	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	①	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	20	11		<ul style="list-style-type: none"> <li>・スペースとしては十分確保されているが構造上の問題（動線・各部屋の広さなど）は使用方法やパーティションで工夫している。また、物品の位置についても工夫して配置している。</li> <li>・プレイルームをグループで交代で使用するようになっている。グループの部屋を散歩などで部屋を空ける時などは、他のグループが使用できるように工夫している。</li> </ul>	今後も構造上の課題については、パーティションなどを活用して構造化の工夫をする。また、活動の内容に合わせて、物品の配置や子どもの座席の位置を工夫する。
	②	職員の配置数は適切である	25	6		日々、全体で子どもの人数に合わせた職員数になるように調整を行っている。	子ども人数に合わせて適正な職員数で支援を行い、数に頼る支援にならないようにする。 活動内容のさらなる充実と過介入にならないよう目的を明確にした人員体制でのかかわりを大切にする。
	③	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっている。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	21	10		<ul style="list-style-type: none"> <li>・部屋、ハード面は建物の増築をしていることもあり、構造化されているとは言えないが、パーティションや絵カードに加えて、刺激となる箇所を目隠しするなどして、子どもにとってわかりやすい環境作りをしている。</li> <li>・視覚支援をテーマに構造化に取り組んだ昨年の経験をもとに各クラスの状況に合わせて工夫している。</li> </ul>	今後も構造上の問題については、絵カードやパーティション等を用いて子どもにとってわかりやすい環境づくりに引き続き取り組む。
	④	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっている。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	22	9		・清掃消毒をマニュアルに基づいて実施。活動中も換気しつつエアコンで室温調整している。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・引き続き、日々の清掃消毒はマニュアルに基づいて実施・徹底する。</li> <li>・活動する部屋の整理整頓を行い、心地よく活動できるようにする。</li> </ul>

		チェック項目	はい	いいえ	他	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
業務改善	⑤	業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画している	28	3		<ul style="list-style-type: none"> <li>・振り返り、改善を行っている。</li> <li>・全体ミーティング・担当者会議・係会議・専門職会議等の会議を活用し全職員が改善に参画し、業務改善に向けた意識の向上をはかっている。</li> </ul>	今後も業務改善に向けた意識を高めていくために会議等を活用して全職員が参画できるようにする。また、グループの取り組みについては、日々時間を決めて行う。定期的に行うグループミーティングでも計画について検証する。
	⑥	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	31			<ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者からの聞き取り調査を実施し、業務改善につなげている。</li> </ul>	事業所評価で把握した課題の改善提案については定期的に確認し実施する。また、日々の保護者とコミュニケーションをはかり、意向把握に努める姿勢を持つ。
業務改善	⑦	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	30	1		<ul style="list-style-type: none"> <li>・評価結果はホームページと掲示にて公開している。</li> </ul>	今後も継続する。また、公開していることを周知する。
	⑧	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	30	1		<ul style="list-style-type: none"> <li>・評価結果を基に改善につなげている。</li> <li>・3年に1度の実施で今年度実施。</li> </ul>	第三者評価で把握した課題の改善策について取り組んでいるか確認する意識を持つ。
	⑨	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	31			<ul style="list-style-type: none"> <li>・研修計画をもとに実施。職員の希望に応じて外部研修や施設見学に参加する機会を作っている。</li> <li>・年間予定を立てるがタイムリーなものに変更、応用しながら実施している。</li> </ul>	今後も課題や問題についてタイムリーに取り組めるよう、年間計画にないものにも柔軟に実施していくことで職員の資質の向上を図る。
適切な	⑩	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	31			<ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者からの要望を伺い、計画を作成するようにしている。</li> <li>・面談や日々のやり取りを通じてニーズを把握している。</li> </ul>	今後も計画作成時は、保護者からの要望や本人の状態像を踏まえて、グループ職員や専門職が多角的な視点で計画作成に参画する。
	⑪	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用している	30	1		<ul style="list-style-type: none"> <li>・発達検査を評準的に使用。</li> <li>・標準化された発達検査を定期的実施している専門職からの意見や、助言も参考にしている。</li> </ul>	引き続き、発達検査の結果を子どもの状態像の理解と支援につなげるため、アセスメントの目的・内容の理解も含めて日頃の振り返りや研修を実施する。ツールを使用するだけでなく、ツールを使用した結果の内容と支援計画の目標についても検証する。

		チェック項目	はい	いいえ	他	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
支援の提供	⑫	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援（本人支援及び移行支援）」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	29	1	1	・具体的な支援内容になるように努めている。	児童発達支援センターに向けて児童発達支援計画の見直しをする。今までは適宜家族の意向を追記していたが、新しい書式では欄として追加する。シンプルで分かりやすくすること、地域支援の視点を更に意識する。
	⑬	児童発達支援計画に沿った支援が行われている	30		1	・常に意識し、振り返りをしている。	引き続き、きちんと計画を意識した支援が有効に提供できるよう、全スタッフがチームとして取り組み、保護者とも共有する。
適切な支援の	⑭	活動プログラムの立案をチームで行っている	24	7		・常勤が主に立案しているが、グループ全体で細部をつめてから実施している。	専門職を含めた多職種からの視点で活動を振り返り、その意見を取り入れ作成する。
	⑮	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	30	1		・繰り返しを大切にしているが、参加の様子や児の様子によって調整や変更を加えている。 ・あえて固定していることもある。繰り返しの必要があるものはしっかり積み上げる	更に活動プログラムのねらい、職員が目的をもって関わる点をグループの打合せで共有し、より有効な支援を目指す。
	⑯	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成している	25	6		・個別療育は行っていないが、集団の中で個別でじっくり丁寧に対応することが必要な場合は支援計画に取り入れている。 ・身辺自立に関しては特に各々異なるので個別に作成している。 ・集団活動を中心に取り組むが個別支援の視点をもって対応している。具体的な対応策は、その都度、グループで話し合っている。	集団活動の中で、個々の特性に合わせた働きかけや活動の内容の手立てを計画作成の際に盛り込む。
適切な支援の	⑰	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	29	2		・前日の活動終了後および当日の朝の時間を活用して行っている。 ・毎朝実施している。	連絡帳アプリからの情報も共有しながら、ポイントを絞った打ち合わせを行う。

		チェック項目	はい	いいえ	他	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
提供	18	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	23	8		<ul style="list-style-type: none"> <li>・他の業務に追われていて、振り返りが十分にできないことが多いが、片付け等をしながらもできるだけ話をするようにして、グループ全体で共有できるように努めている。</li> <li>・忙しく毎日全員で振り返りを行うのが難しいが、気づいた点などはその日のうちに常勤職員に伝えるようにしている。</li> <li>・記録の共有で補っている。</li> </ul>	限られた時間を有効に使うため、優先順位を立てて時間を使うようにして振り返りを行い、記録で共有する。日々足りない点はグループミーティングなどを設けて、共有できる場面を設定する。
	19	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	29	1	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもの様子だけでなく、保護者から聞き取った情報も記録に残すようにしている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもの記録は充実してきているので、さらに支援計画の評価についての記入を心がける。</li> <li>・打ち合わせやケース検討の記録をする。</li> </ul>
	20	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	27	1	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・定期モニタリングの他、日々の振り返りでも確認する。</li> <li>・子どものトイレトレーニングのタイミングなどは特に検討することが多い。</li> </ul>	定期的なモニタリングは今後も継続する。児童発達支援計画の見直しは状況に合わせて行い、記録として残す。
関係機関や保	21	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	28	1	2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・出席依頼があったときは職員を調整して参加している。</li> <li>・担当者会議が開かれる時には児発管、担任の両方がいずれかが参加できるように調整している。</li> </ul>	引き続き、依頼に対し職員を調整して参加する。必要を感じた場合は相談支援事業所に実施の依頼をする。
	22	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	31			<ul style="list-style-type: none"> <li>・あゆの子全体で日常的に連携の体制がある。必要な場合、ケース会議開催の働きかけをしている。</li> </ul>	今後も継続して取り組む。
	23	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている	25	2	4	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現在、対象児童がいないが、いる場合は連携をとる。</li> </ul>	対象児がいる場合、家族の意向や主治医の指示を得ながら必要な機関と連携し適切な支援を行う。
	24	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている	25	1	5	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現在、対象児童がいないが、いる場合は連携をとる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・対象児がいる場合、主治医の指示を得ながら必要な機関と連携し適切な支援を行う。</li> </ul>

		チェック項目	はい	いいえ	他	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
保護者との連携関係機関や保護者との連携	25	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校（幼稚部）等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	30	1		・保護者の意向を確認し、希望する場合は子どもの様子や支援内容を共有できるように児童票を作成している。移行先の先生と直接対面にて、もしくは直接できない場合は文書のみで引継ぎを行う。	今後も保護者の同意を得た上で移行先の園・学校と必要な情報共有をする。退園児（保育園等への移行児）については、外来担当への引継ぎを行う。必要に応じ通園担当者がフォローできるよう連携を強める。
	26	移行支援として、小学校や特別支援学校（小学部）との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	30	1		・保護者の意向を確認し、希望する場合は子どもの様子や支援内容を共有できるように児童票を作成している。移行先の先生と直接対面にて、もしくは直接できない場合は文書のみで引継ぎを行う。	今後も保護者の同意を得た上で必要な情報共有をする。
	27	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	27	2	2	・施設として自立支援協議会に参画している。その他出席を求められた時は積極的に参加している。 ・市内児発事業所の連絡会をあゆの子が主催している。 ・他機関から講師を招いた研修を実施し、助言を頂いている。	あゆの子としてどのような取り組みをしているのか全職員が理解を深められるよう、報告の機会をつくる。
	28	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会がある	6	21	4	今年度から保育園との交流を再開している。年長児が参加し次につながる良い経験ができた。 ・散歩で公園に行ったときに、保育園等と一緒にあったときなどには、自然な交流をこころがけている。	・交流行事に関しては個々のタイミングを見ながら安心した環境を設定できるように計画を立てる。 ・公園で他の園の子どもと一緒にあったときは、職員と一緒に関わりながら、楽しく遊べる経験ができるようにする。
	29	（自立支援）協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	15	7	9	・現在、府中市では自立支援協議会の下部組織に子ども部会の設置がないが施設として自立支援協議会に参画している。 ・医ケア児に関する会議に参加している。	あゆの子として参加している会議等について全職員が理解を深められるよう報告の機会をつくる。
	30	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	30		1	日々の申し送り等の時間に情報共有しながら、丁寧に対応している。	今後も継続して取り組む。次年度の児童発達支援センターへの移行にむけて保護者に丁寧な説明をする。移行後も現状と変わらない支援を継続できるように準備する。
	31	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラムの支援を行っている	29		2	・良い点は必ず共有し保護者の自信に繋がるように支援している。 ・両親学級、活動参加などを通して、保護者と発達状況や課題等の共通理解ができるようにしている。	家族支援プログラムの内容を決める際には保護者のニーズを織り込めるように検討する。あゆの子の家族支援プログラム実施後には、引き続き参加できなかった保護者や職員全体にも報告し共有する。
32	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	29	1	1	・申請時や契約時に児童発達支援管理責任者が主に説明を行っている。	今後も継続して取り組む。また、職員にも説明の流れなどを確認する機会をもつ。	
33	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	29		2		今後も継続して取り組む。	

		チェック項目	はい	いいえ	他	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
保護者への説明責任等	34	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	30		1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・申し送りの時間など日々のやり取りの中で対応している。場合によっては面談等を設定している。</li> <li>・家庭訪問（5月）と面談（8月・3月）を行っている。</li> <li>・即答できないことに関しては時間を空けずに検討し、相談に応じている。</li> <li>・専門職による発達相談、進路面談なども実施している。</li> </ul>	今後も継続して取り組む。
	35	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	30		1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・両親学級、お父さん学級など実施している。保護者会の自主活動にも協力している。</li> </ul>	今後も継続して取り組む。職員も参加できるよう意識する。また、参加した職員からの報告により組織として情報共有する。
	36	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	30		1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・組織としてまとまった対応をしている。</li> </ul>	今後も継続して取り組む。あゆの子全体でスムーズに対応することができるように役割を確認しながら、組織として責任をもって対応をする。
	37	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	30		1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・連絡アプリを活用することで充実させている。</li> <li>・月初めに、おたよりを発行している。</li> <li>・施設共通の新聞としてセンター新聞「ともだち」を発行している。</li> </ul>	今後も継続して取り組む。さらにあゆの子全体の活動についてはあゆのこだよりや連絡アプリを活用して情報発信する。
	38	個人情報の取扱いに十分注意している	30		1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・個人情報の取り扱いには十分に配慮するよう努めている。</li> <li>・規程に基づき管理、研修を実施している。</li> </ul>	今後も定期的な研修の実施とともに、個人情報の取り扱いには細心の注意を払いながら対応する。
	39	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	30		1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・連絡アプリの活用をしている。</li> <li>・外国人の保護者で口頭での伝達では理解しにくい時は分かりやすくメモに書いて伝える等している。</li> </ul>	「よりわかりやすく伝える」ということを考えながら支援・工夫する（AI機器の翻訳機能、書面、個別での説明）。
	40	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	29	1	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・年に一度、福祉センターまつりを開催している。その中で事業内容をPRしている。</li> <li>・地域交流イベントを実施している。</li> </ul>	今後も継続して取り組む。
41	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	30		1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・BCP・虐待身体拘束等の研修も実施。</li> <li>・多摩川の浸水等を想定した研修も実施した。</li> </ul>	今後も各種マニュアルをもとに職員が的確に対応できるように訓練、研修を行う。	

		チェック項目	はい	いいえ	他	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
非常時等の対応	42	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	31			<ul style="list-style-type: none"> <li>・実際の災害を想定した訓練を行っている。（地震、火災、水害、心肺蘇生等）</li> <li>・今年度は新たな取り組みとして引き取り訓練も実施。</li> </ul>	今後も継続して取り組む。
	43	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している。	31			<ul style="list-style-type: none"> <li>・新入児アンケートで確認、適宜情報の更新をしている。</li> <li>・子どもの配慮点、留意点の点検と再認識を他のグループの職員にもわかるように周知している。</li> </ul>	今後も継続して取り組む。
	44	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている。	30	1		<ul style="list-style-type: none"> <li>・食物アレルギーを含めて各子どもの配慮点、留意点の点検と再認識をし職員全体に周知している。</li> <li>・医師の指示書をあゆの子職員と給食業者で共有している。</li> </ul>	今後も継続して取り組む。
	45	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	28	1	2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・あゆの子内だけでなく施設全体で共有する仕組みがある。</li> <li>・時間をかけて話し合いをして、対応策を検討している。</li> </ul>	今後も継続して取り組む。
	46	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	31			<ul style="list-style-type: none"> <li>・年に1回は必ず研修している。</li> </ul>	今後も継続して取り組む。
	47	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	30		1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・計画書に記載している。</li> <li>・子どもの安全を第一に考え、十分に話し合っ対応している。</li> </ul>	身体拘束以外の方法で対応することを第一に考える。やむを得ず行う場合については、引き続き必要な手続きを経て丁寧な説明に努める。加えて児童発達支援計画の記載方法について検討する。

○この「事業所における自己評価結果（公表）」は、事業所全体で行った自己評価です。